

学年・教科・担当者	2年 社会科 中村 亜紀
-----------	--------------

学期	月	学習内容	学習のねらい
I 学期	4～6	第3節 アフリカ州 第4節 北アメリカ州 第5節 南アメリカ州 第6節 オセアニア州	・アフリカ州の人々の生活や産業の特色を理解し、アフリカ諸国とヨーロッパ諸国との文化や経済的な関係を、資料を用いながら歴史的背景を踏まえて理解している。 ・輸出品が特定の農産物や鉱産資源に偏るようになった原因を追究し、その問題点を多面的・多角的に考察することができる。 ・アフリカ諸国が抱える問題について、モノカルチャー経済に着目しながら、アフリカ州の地域的特色への関心を高め、問題の解決を主体的に追究しようとしている。 ・世界をリードし続けているアメリカ合衆国において、民族の多様性や、広大な国土を利用した農業、変化し続ける工業について理解している。 ・北アメリカ州の地域的特色や課題を、そこに暮らす人々の生活を基に、多面的・多角的に考察している。 ・世界に大きな影響を与えている北アメリカ州の産業や文化に着目しながら、それに関わる課題を主体的に追究しようとしている。 ・南アメリカ州を取りあげ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を身に付ける。 ・南アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、南アメリカ州の地域的特色を大観し理解する。 ・南アメリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 ・南アメリカ州の地域的特色と開発に伴う環境問題について主体的に追究する。
			・多様な文化を受け入れながら、独自の文化を形成してきた南アメリカ州の経済成長を理解するとともに、発展の一方で経済格差や環境破壊などの問題が生じていることを、本文や資料から調べ、まとめることができる。 ・ブラジルで経済成長が続いている要因と熱帯林の減少の背景を関連付けて考察し、その解決策を多面的・多角的に考察している。 ・近年の経済成長に着目しながら、南アメリカ州の地域的特色と農地や鉱山の開発による環境問題について主体的に追究しようとしている。 ・オセアニア州の自然環境の特色と植民地支配されていた歴史を理解し、自然環境と結びつく産業や、多文化社会による移民と先住民との共生などの地域的特色を理解している。 ・オセアニア州の国々が、ヨーロッパの国々と密接な関係を保ちながら、近年アジアとのつながりを深め、多文化社会を進めている理由や課題を多面的・多角的に考察している。 ・オーストラリアやニュージーランドの多文化社会に着目しながら、オセアニア州の地域的特色や地域の新たな課題を主体的に追究している。
I～ 2学期	7～ 10	第3部 日本の さまざまな地域 第1章 地域調査のしかた 第2章 日本の 地域的特色 第3章 日本の 諸地域	・場所などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の 資質・能力を身に付ける。 (1) 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解する。 (2) 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付ける。 (3) 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信の項目」を取りあげ、分布や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下の資質・能力を

			身に付ける。 (1) 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解する。 (2) 少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解する。 (3) 日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解する。 (4) 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解する。 (5) 各項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解する。 (6) 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付ける。 (7) 各項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。 (8) 日本の地域的特色を、各項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 (9) 自然災害への対応や人口減少に伴う少子高齢化など、身近な地域や生活との関わりに着目しながら日本の地域的な課題について、主体的に追究する。 ・自然環境を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、それぞれの地方について以下の資質・能力を身に付ける。 (1) 地域的特色や地域の課題を理解する。 (2) 自然環境を中核とした考察の仕方を取りあげた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。 (3) 中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 (4) よりよい社会の実現を視野に、自然環境と生活、産業との関わりについての課題を主体的に追究する。
--	--	--	--

2 学 期 ～ 3 学 期	11～3	第3節 武士による全国支配の完成 第4節 天下泰平の世の中 第5節 社会の変化と幕府の対策 第5章 近代前半 近代国家の歩みと国際社会	(1)江戸幕府の支配の下、大きな戦乱のない時期を迎えたことなど、中世から近世への転換の様子を、中世の武家政治との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できる。 (2)江戸幕府の成立と幕藩体制について、幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことで、全国の土地と人々を支配するしくみが確立していったことを理解できる。 (1)身分制の下で、人々はそれぞれの身分のなかで職分を果たしたこと、農村が幕府や藩の経済を支えていたことなどを理解できる。 (2)農林水産業や手工業、商業などの産業や経済の発達に、河川・海上交通、街道の整備が果たした役割について考察できる。 (3)藩校や寺子屋などの普及に着目して、人々の教育への関心の高まりに気付くとともに、学問・芸術・芸能などの地域的な広まりに着目して、文化の社会的な基盤が拡大したことを理解できる。 (4)近世の文化について、大阪・京都・江戸などの都市を舞台に、経済力を高めた町人を担い手とする文化が形成されたことなどを理解できる。 (1)貨幣経済の農村への広がりや自然災害などによる都市や農村の変化などを踏まえ、近世社会の基礎が動揺していったことを理解できる。 (2)財政の悪化などを背景とした幕府の政治改革には、百姓一揆の発生につながった農村の変化や、商業の発達などへの対応という側面もあったことに気付くことができる。 (3)蘭学や国学などの学問の分野に、新しい時代を切り開く動きがみられたことを理解できる。 (1)次のような知識を身に付けることができる。 (ア) 欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き、(イ) 明治維新と近代国家の形成、(ウ) 議会政治の始まりと国際社会との関わり、(エ) 近代産業の発展と近代文化の形成 (2)次のような思考力、判断力、表現力などを身に付けることができる。 (ア) 工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、(1)の(ア)から(エ)までについて近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できる。 (イ) 近代(前半)の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。
------------------------	------	--	---

評価について	
評価の観点	評価の方法
知識・技能	・定期テスト ・小テスト ・レポート など
思考・判断・表現	・定期テスト ・課題 ・発表 など
主体的に学習に取り組む態度	・授業に取り組む姿勢 ・課題 ・ノート など